枚方市
まちづくりワークショップだより

第8回

2014年6月
発　行

平成26年5月18日（日）に、第5次枚方市総合計画の策定に向けて、最終回となる「第8回枚方市まちづくりワークショップ」を開催しました。

第8回は19名の参加で、「まちづくりワークショップ報告書」の最終確認を行った後、市長との懇談会を行いました。懇談会では、参加者からこれまでのワークショップを通しての感想や市の今後の取り組みに対する様々な意見が出されました。

［当日の流れ］

◇前回のワークショップだよりの確認
◇「まちづくりワークショップ報告書」の確認
◇市長との懇談会
　「まちづくりワークショップを終えて」
◇記念撮影

竹内市長のあいさつ（要旨）

昨年の12月から約６ヶ月間にわたり、平日の夜間あるいは休日の開催など、お忙しい中にもかかわらず、まちづくりワークショップにご参加いただき、毎回白熱した議論を行っていただきました。

本日、報告書をとりまとめ、ご意見・ご提案いただきましたことに対しまして、厚くお礼を申し上げます。

報告書につきましては、まちづくりワークショップ参加者の皆さまからの貴重なご提案として、６月下旬に開催を予定している総合計画審議会に報告させていただき、より良い総合計画へとつなげていきたいと考えています。

「まちづくりワークショップ報告書」について

とりまとめた報告書の概要は以下のとおりです。

【報告書の概要】

1．まちづくりワークショップの概要

実施の目的・方法
参加メンバー
開催の経過

2．まちづくりワークショップによる意見・提案

分野別テーマ①「環境を守り育てるために」
分野別テーマ②「安全・安心に暮らすために」
分野別テーマ③「活気・魅力ある暮らしのために」
分野別テーマ④「健康で心豊かに暮らすために」
分野別テーマ⑤「子どもを育み、学び続けるために」
各分野でみられた共通課題
枚方市の魅力発信（特色・セールスポイント）

資 料

各回のワークショップにおける意見・提案の詳細

環境を守り育てるために

めざすべきまちの姿（「緑が豊かなまち」、「美しい環境を保つまち」、「環境教育の充実」など）と必要な取り組みに関する意見・提案

安全・安心に暮らすために

めざすべきまちの姿（「災害に強いまち」、「安全に歩けるまち」、「犯罪の少ないまち」など）と必要な取り組みに関する意見・提案

活気・魅力ある暮らしのために

めざすべきまちの姿（「歴史文化芸術を感じられるまち」、「枚方市駅周辺の活性化」など）と必要な取り組みに関する意見・提案

健康で心豊かに暮らすために

めざすべきまちの姿（「医療体制が充実したまち」、「市民の健康づくりの推進」など）と必要な取り組みに関する意見・提案

子どもを育み、学び続けるために

めざすべきまちの姿（「生きていく力を育む教育」、「安心して産み育てられるまち」など）と必要な取り組みに関する意見・提案

各分野でみられた共通課題

「行政と地域の連携」

あらゆる分野で行政と地域の連携が不可欠。行政情報をわかりやすく発信し、市民はまちづくりに対する意識を高め、互いに話し合う機会を充実することが必要。

「地域の人づきあい・コミュニケーションの充実」

防災、防犯など様々な分野において、地域で協力し合える人づきあいの充実が必要。世代を超えた交流が重要で高齢者の技能・経験等の伝達が必要。

「市内大学との連携」

市の地域資源である市内大学と行政・地域が連携し、学生によるコミュニティなどの活動への参加を促進していくことが必要。学生の定住化にもつながる。

「情報発信力の強化」

情報は、市民が分かりやすく、よりタイムリーに発信することが必要。また市の魅力は子どもの頃から伝えるとともに、市外へのPR強化が必要。

枚方市の魅力発信（特色・セールスポイント）

○福祉の充実したまち

高齢化が進む中、高齢者に対する福祉のほか、障害者など誰にでもやさしいまちであるべきで、枚方市が福祉のまちと言われるようになるべきである。

○子育て・教育が充実したまち

少子高齢化が進む中、子どもを安心して産み育てられ、教育に強いまちであるべきで、誰もが生涯、生きがいをもって学べるまちとして発信していくべきである。

○健やかに暮らせるまち

医療施設や医療系大学を活用しながら、健康寿命を延ばす取り組みなど、健やかに暮らせるまちとして特徴をつくっていくべきである。

○歴史・文化芸術のまち

市内の歴史遺産などを生かし、観光名所や“菊”のPRを進めるほか、子どもたちに枚方市の歴史を伝え、歴史・文化芸術のまちとして発信していくべきである。

○世代間交流や地域連携が活発なまち

学生のまちを生かし、地域と大学の連携など高齢者から若い世代までの世代間交流・コミュニティ活動が活発なまちと言われるようになるべきである。

○住みたいまち・住みやすいまち

豊かな自然、安全安心など様々な分野で総合的に取り組むとともに、市民からの提案が生かされる機会を充実していくことなどにより、住みたい・住みやすいまちを発信していくべきである。

当日の主なご意見・ご感想等　市長との懇談会 ～ まちづくりワークショップを終えて ～

参加者のご意見・ご感想

○広報などについて、例えば、中核市移行に関して、メリット・デメリットをわかりやすく記載するなど、情報発信に工夫していく必要があると思う。
○教育文化都市というならば、学校図書館の蔵書の充実や地域開放などの有効活用を図るべき。
○中核市となった今だからこそ、変えていけることがあると思う。
○多様なメンバーが集まり、色々な意見が出たので、勉強にもなり、楽しい会議だった。
○市民みんなで協力して地域のまちづくりをしていければいいと思う。
○総合計画は計画で終わるのではなく、具体的にどう取り組んでいくかが重要。
○もっと市政に市民の声を反映していけるように、ワークショップ等を定期的に開催してほしい。
○まちづくりに関心を持っていない若い世代でも参加しやすくする必要があるのではないか。
○計画から実施段階に移行するにあたっては、地域のコンセンサスを得ることが大事。
○枚方市駅周辺の開発にあたっては、枚方市の表玄関という意識を強く持つべき。
○市も市民に対してマーケティングを行えば、総合計画づくりの材料が見えてくると思う。
○枚方の菊の文化を枚方市のブランディングにもっと活かしてほしい。
○外に出る機会の少ない高齢者の外出を促すような仕組みがあればいい。
○行政の縦割りが横割りになることで、手続きや問合せ等のスムーズな応対に期待する。
○枚方市には森林公園が少ないので、もっとあってもいいのではないかと感じる。
○市役所に市民交流の場を設けて、そこで出された意見が市政に反映できる仕組みを作ってほしい。
○障害のある児童生徒も地域の中でみんな共に学んできた枚方の良さをこれからも期待する。
○声の大きい人の意見だけでなく、市民の中に埋もれた意見も抽出することができればいいと思う。
○行政の財源は税金なのだから、行政の横の連携や市民や地域とのコミュニケーションをもっと密にして、費用対効果の高い使い方をしてほしい。
○ワークショップでの色々な意見が審議会でどう計画に落とし込まれるのか、途中経過を含め、共有してもらいたい。
○市内には６大学があるので、学生が政策提案できる「まちづくり政策フォーラム」などを開催してもいいのではないか。
○ワークショップでは、毎回違ったテーマではなく、話し合った内容をもとに話し合っていけば、より深い議論ができたのではないかと感じる。
○情報発信力の強化は、総合計画策定に向けてというより、明日からでもできると思う。
○来年４月に新しく支援学校が開校するが、これを機に「福祉のまち・枚方」を復活させるようなブランド戦略に期待する。
○行政は絶えず大きな目的を意識して、計画・手段を見直すことが必要なので、そのことを庁内の隅々にまで徹底させてもらいたい。
○一度作った計画であっても、それが時代にそぐわないものであったとすれば、計画の途中であっても止める勇気も必要。
○行政文書は一度明文化されてしまうとそれが正になり、変更が効きづらいので、総合計画に入れる文言はしっかりと推敲してほしい。
○枚方市歌には、市民が普遍的に大事にしなければいけない想いが込められている。
○市民には協働の意識の高い人もいるので、行政はもっと市民を信用して任せるところがあってもいいのではないか。
○行政職員の対応にばらつきがあるが、感じの悪い対応は市民の行政に対する不信感を募らせるので、接遇の研修をするなど、勉強してもらいたい。

竹内市長の意見・感想

総合計画をつくる上では、市政全般に目配りすることが必要で、今回のワークショップ報告書を見せていただくと、あらゆる角度からご議論され問題提起をいただいており、非常にありがたく思っている。

計画を作成するにあたり大事なことは、現状と課題を十分に認識することであり、更に、計画を進める上では、特に手段が目的化しないよう、常に事業効果を検証しながら、取り組みを進めていかなければならない。

皆様には、ぜひとも今後の総合計画審議会での議論を注視いただくとともに、引き続き、本市のまちづくりに関心を持ってもらい、意見を伝えていただくことで、期待に応えられる市役所、より良いまちづくりにつながっていくと考えている。

【編集・発行】枚方市　政策企画部企画課
TEL：841-1254（直通）
FAX：846-5341
Email：kikaku@city.hirakata.osaka.jp